

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（5月）

留学先：天主教輔仁大学

氏名： 藤堂智江

みなさまこんにちは。5月は時の流れがこちらに来て一番早かったように感じています。気づけば台湾での初学期も残すところあと一ヶ月となっており、少し焦る気持ちもあります。そんな今月の報告書では、中国語学習について、台湾人のあたたかさ、小学校見学、今月のハイキングについてお伝えしたいと思います。

【中国語学習】

先月の報告書でもお伝えしましたが、私は現在言語センターによって提供されている夜間の中国語コースと2人という少人数でのレッスンを通して中国語を学習しています。来たばかりの時は中国語を聞いてもさっぱり分からなかったのが少しは分かるようになったと信じ、ポジティブに受け止めようとしています。正直なところ、はっきりと進歩したとは言えないと感じています。一緒にご飯を食べたり遊んだりする友達とは大抵英語か日本語で話す相手なので授業外で実際に中国語を使う機会があまりなく、もっと自分から機会を作らなければならないと考えています。今のところ一番自信を持って使える言葉はドリンクスタンドでの注文の際いつも使う「去冰・無糖」という言葉です。残りの一ヶ月はもう少し中国語を話す機会を増やすことができるよう努力したいです。

この状況の打開策として、来学期は日本語学科の翻訳の授業や文化についての授業を履修し、言語交換を気軽にできる台湾人の友達を作りたいと考えています。それらの授業は他のほとんどの日本人留学生が履修している授業なので、私も履修すれば良かったと少し後悔しています。特に前学期からこちらにいるルームメイトはそのクラス内で言語交換ができる相手を見つけうまく機会を作っていると話していたので、見習いたいです。また、夏休みである8月中は一時帰国する予定なのでその際に中国語検定の勉強を始めようと計画しています。



夜間の中国語コースの教科書
台湾の師範大学の作成

【台湾人のあたたかさ】

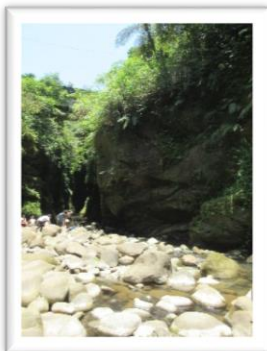
5月に入り、また人間関係の輪が広がりました。まず、共通教育の授業「Re-defining Development in the Age of Globalization」で友達ができました。この授業はドイツ人の先生が教えており、英語開講科目のひとつです。共通教育のひとつであるため履修している生徒の学部も学年も様々ですが、グループによるプレゼンテーションが2.3

回課され、それによって他の生徒と打ち解ける機会がもたらされたのはラッキーなことでした。そのグループメンバーや近くに座っていた子がお昼ご飯に誘ってくれたのでとても嬉しかったです。彼らもまたこの授業で出会った者同士なのですが、自分の大学の共通教育の授業でそのようなことはあまり起こらなさそうだと思ったので、これは台湾の良い文化かもしれないと考えています。また、そのうちの一人は次週に他の友達と少し離れた街、新竹へ行く予定があり、一緒に行かないかと誘ってもくれました。残念ながら別の予定がありそのお誘いに乗ることはできませんでしたが、また今度一緒に遊ぼうと話しています。

【小学校見学】

今期参加させていただいている授業に TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)、外国語としての英語教育についてのものがあります。そのプロジェクトの一環として大学付近の小学5年生の英語の授業を見学する機会を得ることができました。私が中学生の時に学んだ内容を小学5年生で学習しているのを目の当たりにして更に台湾の英語教育事情に興味がわきました。また、一般的な日本の小学校との違いとして、児童達は制服があるにも関わらず、週に1, 2度私服で登校できる日があり、そうすることにより自己形成を促進しているということを知りました。7月にはプロジェクトの集大成として彼らに向けてイベントを開くため、また新たな発見ができるかと思えます。

【蚯蚓坑-Wormhole-】



台湾には自然を楽しむことができる場所が多くあります。今月は蚯蚓坑という、台北市から少し東に位置する川へ他の国からの留学生や台湾人の友達、およそ20人で訪れました。バス停から川辺までは少し森のような道と、驚いたことにロープにつかまりながら下りる岩場がありました。日本でこのような場所に行ったことがなかったためとてもわくわくしました。私は自然が本当に好きなので、多くの友達と一緒にこの場所へ来て自然の中で遊べたのは本当に嬉しいことで、忘れがたい思い出となりました。

更にその後には日本人観光客からも人気のある平溪へ向かい、ランタン(天燈)に願いを書いて空に飛ばしてくるという、なんともアクティブな一日でした。

